

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892300043		
法人名	株式会社やすらぎ		
事業所名	グループホーム松風		
所在地	三木市吉川町有安303		
自己評価作成日	平成25年5月30日	評価結果市町村受理日	平成25年8月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.hyogo-kai.go.com/">http://www.hyogo-kai.go.com/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2013年6月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑に囲まれた静かな環境にホームは建っています。「笑顔 あふれる 家族」を理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中、スタッフが笑顔を忘れずご入居者の心からの笑顔が引き出せるように接することを心掛けています。日々の生活の中、ご利用者ができることは行っただきADLの維持ができるよう、身体状況に合わせ援助しています。また、口腔ケアにも力を入れており、希望者には訪問により歯科衛生士による口腔ケアを受けていただけます。菜園では季節の花や野菜を作り、日々の手入れや収穫を行い、自然とふれあうことができます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はゆったりした敷地内に立ち、広い畑を備えた自然に囲まれた立地にある。1ユニット9人の「笑顔 あふれる 家族」として職員、家族も一緒に居心地のいい我が家を目指している。職員自らが笑顔であいさつをすることで話しのきっかけをつくり、またコミュニケーションを図ることで自然な笑顔を引き出す心がけている。そのために利用者の主体性を尊重し、自らの思いや行動を奪わないでありのままを受け入れ、見守ることを大事にしている。今後、事業所は認知症状の進行による心身状態の低下を見据え、職員の今以上の技術の習得や意識向上のための研修も必要と考えている。願わくば今のチーム体制をさらに強化し、地域の拠点としての役割を担い、地域と共に発展されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔あふれる家族」を理念に掲げ、実践につなげられる様、ミーティング時に日々の心がけや気づきを話合っている。常に意識できるように施設内・事務所等に掲示し、施設に関わる全ての方に思いやりの気持ちを持ちで接するよう心掛けている。	利用者の望む生活を利用者が主体となって実現できるよう、職員は利用者寄り添うことを心がけている。そのために、職員一人ひとりが常にご利用者の些細な変化を見逃さない丁寧な観察に努め、個々に振り返る機会を通して気づきを促すよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃への参加。避難訓練への参加依頼。夕涼み会へ参加していただき交流の場を設けている。また、物品購入等地域の事業所に依頼するよう努めている。	年2回の地域の草刈りに参加するなど、地域の情報収集に努めている。中学生の定期的なボランティア訪問、音楽の生演奏など交流の機会が少しずつ増えてきている。地域のパンの移動販売を利用したり、避難訓練等も地域への協力を働きかけている。	今後も情報収集に努め、運営推進会議も活用しながら、交流の場を積極的に持たれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加されている方に限り、話す機会があるが、相談の機会を持ったり地域の方に情報提供する等、地域に貢献するに至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告・情報交換を行い、それに基づいての意見や、その他についての意見・提案等を出し合い、必要な場合にはスタッフとも話し合い、形式的な会議に終わらないよう心掛けている。	地元の区長、老人会会長、民生委員等に、市職員、家族、利用者が主なメンバーである。事業所は入居状況、活動報告、今後の予定等を定例報告とし、事業所の理解を深め、協力依頼にもつなげている。事業所主催の「夕すずみ会」開催への相談等、協力も得られた。	運営推進会議を、地域の現状等を受けて事業所の持っているイベント等の情報を、積極的に発信していく機会と、捉えてみてはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課より出席していただくことにより、定期的に事業所の現状を報告することができている。平素は電話やメールにより連携がとれている。	運営推進会議以外においても、事務処理等も含め気軽に相談できる環境にある。利用者の申し込み等や状況等必要に応じて確認し、密な情報交換により協力体制が確保されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてスタッフが理解する機会を持ち、利用者の状況を把握するよう努め、小さな事でもスタッフ間で情報共有するようにし、安全に過ごしていただけるよう取り組んでいる。	原則、拘束は行わない方針とし、管理者は会議内で必要に応じ職員に伝えるとともに、意識の統一を図っている。玄関は昼間は開放し、出入りについてはセンサーにて即感知し、職員は素早い対応とともに、利用者を見守っている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティング時に学ぶ機会が持てている。スタッフ自身にストレスがたまらないよう、何事も話しやすい環境づくりに留意している。また、利用者の様子観察を行い、小さな変化を見逃さないようにしている。	申し送り、会議等で虐待の内容等について理解を深め、利用者に対しての個々の関わりやケア方針を通して、職員間で周知を図っている。管理者は職員のチームワークを重視した職場環境に努めるとともに、職員の精神面でのサポートにも配慮し、必要に応じて話しを聞く機会を設けている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されているご利用者あり、支援できている。	管理者は契約時等、利用者、家族の状況により、必要に応じて情報提供を行っている。現在、該当者がおり随時連携を図っている。職員は、制度内容に関する理解にはまだ至っていない。	認知症の理解において必要な制度であるので、少しずつでも学習の機会を設けられるよう検討されてはいいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく、見学・申し込みに来られた際、十分な説明を行い、理解できないことや、不明なことがないか確認している。経済的なことの相談があり、対策を話し合うようにし、重度化に伴う福祉用具の使用等も、相談しながら進めている。	事業所の特性を理解してもらうために見学してもらい、雰囲気を感じてもらおうと努めている。本人の日常生活の状態を確認し、そのうえで医療、退居等個別状況についても十分確認、話し合うようにしている。不安を無くすよう、納得のいく説明と十分な時間を設けている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には、意見が聞けるよう積極的に話をする機会を持つように心がけている。直接話にくいことに対しては、書面に記述できる様、面会簿に記入欄を設けている。運営推進会議でも意見・要望を言ってもらえる様、配慮している。出た意見に関しては、スタッフ間で情報を共有し対応策を検討している	家族には、利用者の状況や些細な変化があった場合には随時連絡、相談を心がけ、情報交換に努めている。家族来訪時には、家族の意向も併せ、個別に時間を設け利用者の状態確認及び対策等について相談している。家族からは利用者への見守り等個別の要望が多い。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全スタッフから、意見・提案を聞く機会を設けることはできていないが、随時意見・提案を言える環境づくりが出来ており、出た意見を検討し反映することが出来ている。	職員は、会議等で積極的に意見や提案を発信し、随時職員間で協議し、必要に応じて具体的な実践につなげている。管理者は、職員からの何気ない気付きにも耳を傾け、必要な備品の購入についても、即対応するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃からスタッフと話をする機会を持ち、日々のかかわりから現状を把握する努力をし、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的な研修の機会はないが、自ら学ぼうとする意欲を組み、外部研修への参加を理解している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りができていない		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係が築けるよう、ご本人の思いに寄り添えるよう全スタッフが取り組んでいる。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも信頼関係が築けるように十分にお話を伺い家族の思いに寄り添える様、取り組んでいる。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話を聞き、ニーズを把握し必要に応じて対応。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす家族の意識を持ち、ご利用者主体の生活が送れる様に考慮している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状況を家族と共に共有し、ご家族の状況も理解し、ご家族と相談しながら、ご本人の望む生活の実現を目指している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の援助により、ご自宅に戻られることがある。面会時には、ゆっくりお話がいただける様に環境に配慮している。	本人の意向や思いの把握に至っては、まだ十分とはいえ、本人自らの要望も多くはない。家族だけでなく友人や知人の来訪時には再来訪をお願いし、気軽に来てもらえる雰囲気作りにも努めている。家族からの情報提供等、協力を得ることもある。	利用者との普段の会話から拾い出した、家族の協力も得ながら、少しずつ思いを汲み取る工夫を期待したい。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有の場所であるリビングでは、ご利用者同士が交流できるよう、ご利用者の性格や個性を考慮し良好な関係作りができるよう努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの好みや思いを少しでも多く把握できる様に会話の機会を多く持つように努めている。 意思表示が困難な場合には、生活歴やご家族からの聞き取りにより、理解するよう努めている。	普段の生活の様子や利用者同士の関係性から思いを汲み取ったり、入浴や外出時など個々の関わりや話しから意向をうかがうようにしている。職員はそれらの情報を集約し、本人の意向にできるだけ近づけるよう理解に努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの聞き取りを行っている。一度に聞き取れないこともあるので、日々の生活の中でコミュニケーションをとりながら、情報を増やしている。また、入居前に関わっていた関係者より情報提供をしていただく。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者を知ろうとする意識を持ち、状況把握に努めており、小さな変化でも記録に残し、申し送ることで情報の共有をしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の思いや意向をもとに、スタッフの気づきや工夫等の情報交換をしながら、ご本人に穏やかに落ち着いて過ごしていただけるよう介護計画を作成している。	本人の好きなことや楽しいことを前提に、職員の普段の観察からの気づきや情報を集約し、具体的な本人の意向が反映された計画を作成している。家族には利用者の行事や日常の様子を写真等で報告し、常に状況把握、相談することで協力を得ている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を記録している。また、気づきや提案を申し送りノートに記載し、情報の共有を図り、随時相談し実践している。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・ご家族のニーズととらえ、柔軟に対応できる様取り組んでいる。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアやスーパーの活用、美容院の利用等、近隣の事業所を活用している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望により、入所前からの馴染みのかかりつけ医に受診されているかたもおられ、ご本人・ご家族の意向に合わせた医療機関を選択していただいている。また、ご家族付添による受診の際には、医療機関へ書面での情報提供を行い、医療機関からは治療内容や指示をいただいている。	入所間もない利用者は、以前からのかかりつけ医に家族送迎にて継続受診している。その後、施設から近い病院に変更することもあるなど、医療機関は家族、本人の希望に沿って自由に選択している。また家族が送迎できない時は、有料扱いではあるが、職員が送迎を行っている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問時には、状態変化や、見て欲しいことを連絡票に記録しておき、確認漏れの無いようにしている。またそれに対し指示をもらって対応している。また緊急時等、随時電話連絡を取り指示を仰いだり訪問対応してもらっている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院時には介護サマリーを作成し、入院時のご利用者の支援方法に関する情報提供を行っている。主治医・MSW・ご家族と連携をとるよう努めている。	訪問看護との連携により、薬の管理や配薬、バイタルチェック等日々の健康管理を行い、入院回避に努めている。利用者の状態に異変を感じた時には、医師の診断を仰ぎ、疾病の早期発見、早期治療を行うことで家族、本人が抱える長期入院への不安を軽減している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状態に変化があった場合には、早い段階で状況説明しておき、施設で対応できる範囲をご説明し、ご家族に理解していただいている。その際には、スタッフと現状の共通理解・対応が可能かの話し合いを持ち判断している。	現在、利用者の年齢も比較的若い為、契約時に終末期の説明をしてもあまり関心を示されない。今後、本人、家族の希望により施設で終末期を迎えることになった場合、施設としてできること、また対応が難しいことについては、事前に家族への十分な説明が必要であることを職員間で共通認識している。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制はとれているが、応急手当についてはマニュアルがあるが、訓練等は行っていない。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の定期的な避難訓練を実施しているが、実践力を身に着けるため、年4回の避難訓練を計画している。年に一回は地域住民にも参加いただいている。	定期的な年2回の避難訓練だけでなく、年4回の避難訓練をして実践力を高めている。訓練の知らせは区長を通じて、近隣の自治会へも回覧している。以前避難訓練に地域住民が参加した記録はあるが、継続されているかについては確認できていない。	以前のように施設の避難訓練に地域住民も参加する機会があれば、より地域との連携が深まるのではないかと。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守る対応ができるよう、スタッフ一人ひとりが意識を持ち対応するようにしている。不適切な対応があった場合には、言動を振り返り改善できるようミーティング等で共有できるようにしている。	職員自身が生き生きと明るく接することのできる精神的な余裕は、利用者への尊厳の気持ちに繋がることを職員間で常に話し合っている。親しみと慣れ合いの違いを把握し、不適切な言動は見過ごさず、改善に向けて皆で検討しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意思表示が困難な場合には、選択肢を設け自己決定していただいている。また、日々の様子や言葉、表情の変化にも留意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の意向を理解するよう努め、日課への声掛けは決定権をご利用者さんが持つように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みを把握し、ご希望に添えるようご家族とも連携し、好みの衣類を持参していただけるよう配慮している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立がわかるようにホワイトボードに記入しておき、食事の前に献立を話題にしている。身体能力に合わせ自助具の提供。おしぼりの準備を手伝っていただいたり、基本的には配膳・下膳を自己にて行っていただいている。ご利用者と手作りのおやつを作成している	広いオープンキッチンで利用者と月2回はおやつ作りを楽しんでいる。利用者が庭で育てた新鮮野菜が漬け物となってメニューに加わるなど楽しい食事時間となっている。食堂は男性のテーブル、女性のテーブル、職員のテーブルと三グループに分かれ、男性のテーブルは話題も少なく、食事が終わったら居室に戻る人もいる。。	女性、男性、職員とテーブルが3つに分かれているが、職員も同じメニューであれば、利用者のテーブルに入って一緒に食事時間を過ごすことで、より話題も増え楽しい時間になるのではないかと。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、摂取量を把握しており、摂取量が確保できない場合には、嗜好に合わせたものを提供したり、主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施できるように声掛けを行い、ご利用者の状況に合わせて、介助実施している。義歯利用者に対しては夕食後に義歯洗浄を行っている。		



自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を付けることで、個人の排泄パターン・習慣を理解している。ご利用者の状況に合わせ声掛け・誘導等必要な援助を行っている。	排泄記録から、個別の排泄パターンを把握し、排泄の自立を目標にその利用者一人ひとりにあったリハビリパンツやパットを着用している。また利用者の仕草を観察し、失敗なくスムーズにトイレにいけるよう声掛けにも工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量・水分量の確保に留意している。排泄記録にて排便が見られないときには、主治医の指示通り服薬介助を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を複数準備し、ご利用者に選んでもらう。入浴を楽しんでいただくよう配慮している。基本的には週3回の入浴をさせていただいているが、ご利用者の意思により決定してもらっている。入浴拒否のある方には、気持ちよく入浴していただけるように、声掛けの仕方を工夫し入浴につなげている。	入浴時間が楽しくなるような工夫がなされているが、入浴中の職員とのコミュニケーションも利用者の楽しみの一つになっている。入浴拒否がある人には無理強いせず、入浴が嫌いな訳ではなく面倒な気持ちがあるということを理解したうえで、声かけのタイミングをみて浴室まで誘導し、そのまま気持ちよく入浴して貰えるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの好みを考慮し、寝具の準備をしている。昼寝など生活習慣を尊重し、ご入居者中心で生活サイクルを送っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情にて各スタッフが理解できる様、ファイルしており、薬の変更があったときには、特に注意して様子観察を行うようにしている。ご利用者ごとの状況に合わせ、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者ごとに個別の対応ができるよう、情報収集し、支援ができるよう取り組んでいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	重度のご入居者も体調を考慮しながら、外出の機会を設けている。屋外へ出て、ベンチに座り外気浴をしたり自由に過ごしていただけるよう援助をしている。	利用者に楽しんで貰えるよう、職員が毎月外出の行き先を決めている。大型スーパーや公園での動物ショー、たまにはおやつを食べに行くなど、日頃外出が難しい場所にも皆で出かけている。誕生日には、本人の希望の場所に行く企画なども、計画している。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者の能力に合わせ、希望者にはお金を所持したり使える様に支援ができる。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コードレスフォンを使用し、プライバシーを配慮し電話連絡ができる。また、手紙のやり取りができる支援体制にある。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の物を飾ったり、植物を飾り、生活感や季節感が感じられるよう工夫している。	田畑に囲まれた広い敷地の中にある平屋建ての施設。大きな窓が建物の東西側にあり風通しは良く、日差しもたっぷり振り注ぎ、施錠されていない広い玄関、居間兼食堂、廊下全てが明るく清潔に掃除がされている。明るい風呂場とゆったりとした脱衣所は換気も良く、清潔な空間となっている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに畳の空間を設けたり、ソファーを設置している。リビングの座席は自由に使用でき、気の合う者同士が交流できるよう配慮してある。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、なるべくご自宅で使用されていた馴染みの調度品でしつらえていただけたよう勧めてしている。	広々とした居室に掃き出し窓から日差しと風が通り、気持ちの良い居室になっている。男性利用者の多い施設の為、比較的シンプルな家具が置かれ、のんびりテレビを見て居心地良く過ごされている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の能力に合わせて援助し、安全に暮らせ残存機能が維持できる様援助している。		